

Q: 特殊技法は、楽譜の中に記述されているから客観的に取り扱いので、解析のキーワードとしては研究しやすいと考えられたのか?

A: 流派によっては記述されていないものもあるが、小十郎譜では特殊技法が記述されているので、研究しやすいというメリットもあるので利用した。

Q: 渡辺(東洋音楽学会)“すくい”、“はじき”などを、曲の中での件数で述べていたが、曲の構成部分において、それらはどのくらいの割合で反映されているのか?

A: 曲中での割合が少なくても、曲の中で重要な位置を占めるものもあるので、一概に割合で表現してしまうのには難がある。

(3) 志村哲(大阪芸術大学)、坪井邦明(浜松職業能力開発短期大学)、松島俊明(東邦大学)
日本音楽の情報処理 — 尺八の場合 —

Q: 櫻井(東洋音楽学会)レジメの18頁に視点が書かれてあるが、具体的にどのような所に考慮しているのか?

A: (志村)例えば、鹿の鳴き声を模倣した部分などは、どのように計算機で処理したらよいか思案中だが、将来的には尺八曲をなんとかしてデータベース化にもっていく予定である。

Q: 田口(甲南大学)五線譜から尺八の楽譜に変換を行なっているが、五線譜にのっていないような奏法なども変換しているのか?

A: (坪井)それに関しては検討中で、現在は五線譜にのっている情報だけを変換することをおこなっている。

Q: 福田(NEC 関西)曲想によっては、同じ音階でも音色が違うということもあるが、その点をどのように考えられているのか?

A: (坪井)当面は、出版されているような尺八奏譜をつくるのが目的で、今、述べられたようなことは検討中です。

A: (志村)演奏表現の問題や個人的な趣味の問題もあるが、手本曲に関しては書かれてあるような演奏法を適用する。

前回研究報告の正誤表

矢向正人(九州芸工大): 長唄において三味線の音色はどのように弾き分けられているか?
情報処理学会研究報告 93-MUS-2, 1993年6月12日。

	誤	正
11頁2行目	a h c cis d ...	→ a h c cis d ...
11頁46行目	はじかれるやすい	→ はじかれやすい
15頁19行目	表1	→ 表2
15頁31行目	「五郎」[430-432]	→ 「吉原雀」[65-66]
15頁33行目	上向進行	→ 上行進行
16頁6行目	「花見踊」[373-379]	→ 「鶴亀」[88]

三味線旋律事典刊行の会のご紹介

三味線旋律事典刊行の会は、コンピュータの活用により、現存する三味線音楽のデータベースの作成と、旋律パターンを分類した「旋律事典」の刊行を目的とする会です。音情研からの参加者を求めています。詳しい内容については下記までお問い合わせください。

矢向正人 九州芸術工科大学音響設計学科 〒815 福岡市南区塩原4-9-1
Tel 092-553-4549 (直通) Fax 092-582-6782